

難しい事に挑戦しました

アメリカ材のホワイトオーク材は日本国内で製材する場合柾目に製材の方が材の変形・変質『表面の割れを最小限に防ぐ』を防止するのにベストだと言われています。しかしあえて、木なり『板目と柾目を木の立場にたって製材する方法』に製材する方法を取り入れて製材しました。

ホワイトオーク材の板の表面が割れる事は、製材した板が要求する乾燥スピードより早く水が抜ける事によってもたらされる事ではないかと考え、ゆっくりと乾燥させたら決して表面割れを生じないと思い今回実行致しました。

又表面割れを管理業務だけで解決する事は100%不可能な事は解っているので、買い付け時原木の選定には一工夫しました。それは目の細かい、ヌカメの原木を選んだことです。ホワイトオークは少し荒目の方が色は白ですが、それは割れとの関係で色の白い原木を製材したらほぼ100%の確率で板目は割れます。少し色が白く無くても割れが生じない板を作る事が今回の目的でした。それを実現する事は不可能ではないと思います。この難しい事が出来たら、お客様に素晴らしいホワイトオーク材の新商品を来年以降提供出来ると思っています。



何でこれだけ多くのリスクを伴っても新しい事にチャレンジするのは、たぶん材木屋をずっと続けてやりたいからだと思います。しかし資源の安定供給が最低3年以上先まで見通せる樹種はそう多くはありません。次の記事に取り上げたロシア材等は先々安定した供給が継続出来る保証は少ないかも知れません。その中に有ってアメリカ広葉樹原料はほぼ安定した供給が可能だと思っています。服部商店ではブラックウォールナット及びブラックチェリー材は製材品の直輸入の材も扱っています。又原木を原料にした製材品も扱っています。しかし広葉樹を扱っている者にとってナラ材を扱わなくして広葉樹業者と名乗る事は出来ません。このナラ材を安定して供給できれば何とか継続して材木屋を営んで行けるとも思っています。

もし服部商店が昔から扱っているカツラ材にしがみついていると多分2～3年先には確実に廃業の憂き目に合うと思います。本当に小生は木が好きで材木バカではないかと思っています。

今年の北海道パート 2

昨年の9月から始まった広葉樹原木の今シーズンの特徴は、国内産広葉樹の実情は先月号にて書きましたので、今月は輸入広葉樹原料の実情を書きます。主にアジア産つまりロシア産広葉樹（ナラ・タモ）の実情を書きます。北海道旭川にて毎月開催される広葉樹銘木市のロシア材の出品数量の移り変わりを以下に書きます。

	タモ原木	ナラ原木		タモ原木	ナラ原木
平成23年9月22日	46本	25本	平成22年9月20日	8本	24本
平成23年10月19日	260本	32本	平成22年10月20日	35本	25本
平成23年11月18日	133本	1本	平成22年11月19日	95本	21本
平成23年12月16日	85本	23本	平成22年12月17日	100本	52本
平成24年1月20日	5本	0本	平成23年1月21日	40本	20本
平成24年2月28日	65本	35本	平成23年2月25日	88本	105本
平成24年3月30日	495本	115本	平成23年3月25日	275本	210本
平成24年4月27日	270本	52本	平成23年4月27日	350本	190本
本年 合計	1359本	283本	昨年 合計	991本	647本

旭川の銘木市に出品されるロシア産ナラ・タモ原木は優良材ばかりです。銘木市に出ない品質の落ちる材の方が圧倒的に多いですが、それを除いても大まかな傾向が解ると思います。

本年は昨年よりタモ原木が多く出品されました。その理由は、タモが昨年は人気商品だったのです。その為にタモの方が売れると読んだインポーターはタモ原木を主体に輸入しましたが、ここに来てタモの人氣が多少落ちています。落ちた理由は解りませんが、多分落ちたのでは無く、震災の影響も有って建築関係に使われるタモの絶対量が減っているのではと思います。

他方ナラ原木ですが、今年は283本で昨年よりマイナス364本です。昨年の半分も出品されていないのです。上の数字で解る様にナラ材は現在凄く不足しています。服部商店もナラ原木の仕入れには凄く苦労しましたが、何とか来年以降に使う材料確保は出来たと思います。

下記の数字は服部商店が買いつけたタモ・ナラ原木の数量です。

	タモ原木	ナラ原木		タモ原木	ナラ原木
平成23年10月19日	8本	3本	平成22年10月20日	1本	1本
平成23年11月18日	0本	0本	平成22年11月19日	1本	4本
平成23年12月16日	0本	5本	平成22年12月17日	6本	6本
平成24年1月20日	1本	5本	平成23年1月21日	0本	0本
平成24年2月28日	4本	8本	平成23年2月25日	0本	5本
平成24年3月30日	1本	15本	平成23年3月25日	2本	9本
平成24年4月27日	0本	0本	平成23年4月27日	1本	5本
			平成23年5月27日	6本	0本
本年	14本	36本	昨年	17本	30本

本年のナラ原木の出品数量が昨年比大幅に減っている中、昨年以上の数量を集めることが要求されました。何故か解りませんが服部商店はタモ材よりナラ材の方がお客様から多くのご注文を頂いています。その為良質のナラ材を多く集める事が求められていました。本年の必要数量を旭川の銘木市から集荷するのは本当に苦労した1年だったと小生は思います。

2012年3月30日の旭川の銘木市にて小生が買い付けたナラ原木一部の写真を見てください。



NO127 300 x 64



NO.133 280 x 76



NO1591 400 x 42



NO2722 540 x 54



NO2726 440 x 52



NO2828 300 x 44



NO2858 400X54



NO2883 380X74

久しぶりの休日



昨年の10月以来7ヶ月ぶりにスキューバダイビングに沖縄の恩納村に出かけました。勿論本命は家族サービスです。

昨年11月に目の手術をしたせいもあり、又お客様に買って頂いている原料を集めるのに昨年より数段時間と手間が掛かっている現状では、本当に仕事も家族の事も何もかも忘れる時間を作る事は無理でした。

そしてようやく5月のゴールデンウィークに纏まった休日が取れたので、5年振りに沖縄本島の

恩納村に家族で旅行に出かけました。

小生の家族は妻51歳と長男22歳と長女20歳と次男12歳の5人家族ですが、長男・長女は家族旅行に行こうと誘ってもあっさり断られる始末です。妻と次男が写っている写真は海中道路を下りて直ぐの美しいビーチを訪れた時のです。

ところで久しぶりにスキューバダイビングを楽しみましたが、このスポーツの最も素晴らしい魅力は見ず知らずの方とも直ぐ親しくなれることだと小生は思います。北大阪から来ている若い夫婦の方とも直ぐに打ち解けた話も出来ましたし、ダイビングに直接お世話になる若いインストラクターの方とも直ぐに友達になれました。ダイビングをする者は地球自身が育む海の中の自然の美しさに引きこまれたら、日頃の人間関係の憂さなど飛んで行く事を凄く感じていると思います。



アオ海がめと出会いました。

凄く珍しいコバンザメが甲羅に付着していました。

6月から10月まで毎月ダイビングに行こうと計画しています。

